

第六回 天龍峽詩歌募集 入選作品集

応募期間／平成二十五年九月一日～二十六年八月三十日
応募数／四百十七点 俳句百九十三点・短歌八十五点 川柳百三十九点



■俳句部門

林 悠司 先生選

応募数百九十三点

【特選】

雪しまき龍角峯りゅうかくほうも見栄を切る

園田 稔 (山梨県)

夏座敷なまくらわけても峡の鰯料理

須藤 剛一 (静岡県)

峡下る櫓音に競う蟬時雨

宮下 和家 (飯田市)

【秀逸】

新緑の峡に溶けこみ舟下る

長沼 昌司 (高森町)

峠をゆく若船頭や風薰る

北 寧 駒 (ヶ根市)

渓谷は永久に変わらず紅葉道

岡田 孝道 (埼玉県)

吊橋へ舟より応え渓若葉

窪田 政子 (飯田市)

天龍の霧が育む果樹の畠

原 勝利 (神奈川県)

【佳作】

伊那節を紅葉に聞かせ舟下る

後藤 幸雄 (飯田市)

老鶯ろうおうや膝を並べて足湯して

貝田ひでを (熊本県)

名水や龍吐く水の温みけり

小田中準一 (千葉県)

天龍に舟歌流る紅葉かな

三村 光子 (神奈川県)

晩秋に鳴鶴の書は重み増し

安藤 嘉子 飯田市)

裸木の透けてまばゆき青い空

原 ちふみ 阿智村)

紅葉も燃え上がつてる天龍峡

井上 英一 大阪府)

万緑や奇巖奇石の匂ひ立つ

菅原 文子 神奈川県)

天の川天龍峡と直交す

本田 隆道 東京都)

万緑の色織りなすや天龍峡

石川 圭子 愛知県)

天龍の風颯颯や鯉のぼり

牧田 道代 愛知県)

天龍の川面を渡る百合の風

田中 亮次 駒ヶ根市)

山里の湯舟に浮ぶ十三夜

市瀬 愛子 松川町)



■ 短歌部門

応募数八十五点

【特選】

市丸の龍峡 小唄が聞え来るそんな気のする歌碑に寄りそう

林 利恵 飯田市)

何時の代の名勝天龍船下りきしる櫓の音力こもれり

小木曾美恵子 飯田市)

【秀逸】

生徒らははしやぎ駆けゆく吊り橋の揺れ静まるを待ちて渡りぬ

坂野 加代 愛知県)

雨上がりそよぐ青葉の瑞々し谷より湧きし霧棚引きて

松尾 浩子 飯田市)

朝霧は淡く流るる吊り橋より仰ぐ山々今朝しづかなり

岡田 孝道 岐玉県)

昇り龍のごときに続く階段を数える子らの声ひびきおり

原 ちふみ 阿智村)

【佳作】

姑射橋こやきょうをくぐれば揺るる山 ユリの香の流れくる天龍川下り

小田中準一 千葉県)

いにしえは海原となりし天竜川ダム工事成りて今は被災無し

木下みつき 飯田市)

天龍峡梅雨の晴間の一時の暑き忘れる人のやさしさ

小池 逸次 (岐阜県)

文化の日決めてたづねし天龍峡今年も来ました魅せられて五年

加藤 幸子 (愛知県)

天龍のさくらやつづじ祝いたる我母卒寿至福の時よ

宮崎 浩 (飯田市)

今遠く磨崖まがいに刻みし十勝の風雨に耐えし百十余年

橋本 国雄（飯田市）

舟頭の余興に拍手と歓声が天竜川の空にはじける

神田美智子（東京都）

家族づれ孫のほほえみ背に受けてほほえみかよう初夏の天竜

後藤 孝子（愛知県）

■川柳部門

応募数百六十二点

【特選】

地図にない人情にあう天龍峡

岡田 孝道（埼玉県）

【秀逸】

龍角峯見上げて測る龍の姿よ

青柳鬼（飯田市）

【佳作】

吊り橋でか弱き乙女のふりをする

原 ちふみ（阿智村）

もう一杯若がえり水願いこめ

Y・I（愛知県）

四季の彩見せて和ます渓谷美

犀水（長野市）

フレームを流れはみ出す天龍峡

海苔ちゃん（静岡県）

木漏日の川に煌めく薄緑

ぬらりん（愛知県）

投網待つライン下りのトンビかな

行 雲（兵庫県）

川柳も浮かぶ暇無し川下り

らくちゃん（埼玉県）

白蓮になりきる妻と手をつなぎ

パバラッチ（新潟県）

■天龍峡 ふれあい賞 天龍峡のお店や施設からの賞です。』

【尾曾写真館賞】

遊歩道歩むこの道夫婦道寄り添う影に幸せの鐘鳴る

散歩(千葉県)

【こや堂賞】

孫と来て天龍下れば散るしぶき淡く照らせる昼の月あり

岡田 孝道(埼玉県)

【峡泉賞】

生徒らははしやぎ駆けゆく吊り橋の揺れ静まるのを待ちて渡りぬ

坂野 加代(愛知県)

【辻本屋賞】

今遠く磨崖に刻みし十勝の風雨に耐えし百十余年

橋本 国雄(飯田市)

【天龍峡温泉交流館賞】

温泉の音に霧を染めゆく紅葉咲く天龍峡に憧れて来し

長沼 昌司(高森町)

【天龍ライン下り賞】

投網待つライン下りのトンビかな

宮田 賢三(兵庫県)

【時路屋賞】

やまゆりのかおりほのかにむかしそば

北野まゆみ(飯田市)

【広庭農園賞】

風越の山をみながら玉廻し光を浴びてリング喜ぶ

齊藤 光夫(埼玉県)

【フクザワ賞】

赤黄色木々にさしたる陽光と青き流れる天龍峡

山田 秋米(東京都)

【三輪楽雅堂賞】

生徒らははしやぎ駆けゆく吊り橋の揺れ静まるを待ちて渡りぬ

坂野 加代(愛知県)

【龍峡亭賞】

龍峡に女将三代ほどとぎす

須藤 剛一(静岡県)

【りんご足湯賞】

天竜の色に染まりし足湯舟

中村 与二(須坂市)

*一部、作品の漢字や仮名遣いを修正させて頂いている場合があります。
また、天龍峡では、「天龍峡」の「かゆう」の字を「竜」ではなく「龍」を推奨しており、
そのように変更させて頂いている場合がありますが、ご了承下さい。
なお、誤字脱字がありましたらご容赦下さい。

天龍峡観光再生実行委員会

